

市指定文化財<史跡>

うてなじょうあと
台城跡

指定日 昭和49年4月1日

所在地 菊池市七城町台



菊池十八外城の一つで、本城の西方約5kmの所にあつて、菊池一族興亡の歴史を担ってきた古城である。水島城とも呼ばれ、標高74mの丘陵上にある。

東北面は遠く八方ヶ^{やほがたけ}岳に連なり、西に木野川、内田川が流れる。

『菊池風土記』によれば城主は交代制であつたと記されている。

また、菊池川に沿って侵入する敵を打越城と共に挟み撃ちし得る地点にあつて、中間に馬^ま渡、正光寺、増永の3城を連ねており、菊池川を制し菊池と山鹿を結ぶ道路の関門でもあつた。

天授元年(1375)9月、数万の大群を率いた探題今川了俊を弱冠13歳の賀々丸(武朝)が撃破した水島の戦いは有名である。なお、明治10年(1877)西南戦争の時には政府軍と薩摩軍が隈府の争奪を巡って激戦を繰り返したところでもある。

南西部の台地中腹の崖に「瀬戸口百穴」といわれる横穴(瀬戸口横穴群)があるが、南北朝当時は食糧や武具等を隠しておいたところという。